

2017年企画展示 「朝鮮料理店・産業「慰安所」と朝鮮の女性たち ～埋もれた記憶に光りを～」(2017.08.30～12.28)

好評のうちに終了。ありがとうございました、これからもよろしく申し上げます。

朝鮮女性史研究会一同

アンケートまとめ

◎2017年11月11日に開催しました金富子さんの記念講演「植民地遊廓と朝鮮の女性たち」の講演記録を発行予定ですのでご期待ください。

はじめに

夏に汗をかきながら準備した展示が、暮れの押しつまる時期に終了を迎えました。

この間に展示を訪れた人は1,000人を越えました。日本で初めての「産業慰安婦」に焦点をあてた展示に、どのぐらいの人が関心を持って見に来てくれるのか、不安と期待が入り混じっての展示でしたが、入場者の数は日を増すごとに増え、予想以上の大勢の方に来ていただきました。

アンケートの数は65。入場者の数にくらべると少ないのですが、任意で書いてもらう形になっていたこと、日によっては目立たない場所にアンケート用紙が置かれていたこともあり、あえて書く方が少なかったと思われる。ただ会場での入場者の感触もアンケートと同様でした。アンケートの感想と質問の回答は全体の割合とほぼ同様に思います。

展示を知ったきっかけ

友人・知人、ホームページから知った方が3分の1を占めます。まったくわからないので来てくださった方もいますし、慰安婦、韓国・朝鮮、ジェンダー、労働問題など日ごろから関心を持って来てくださった方も多くおられます。初めて高麗博物館に来た方が多数おられました。

今回初めてwam(アクティブ・ミュージアム「わたしの戦争と平和資料館」とのコラボも実現しましたがwamの展示が『日本人「慰安婦」の沈黙～国家に管理された性』であったこともあり、地方から両方を見に来られた方もいました。共通する話題を提示して興味を持ってもらう試みは成功したといえます。

どこから来られたか

地域別では東京31、埼玉8、千葉6、神奈川4、大阪3、奈良2、北海道1、山形1、栃木1、静岡1、京都1、兵庫1、沖縄1、台湾1、未記入3(合計65)になります。

遠くから来られた方が多いことは会場でも実感したことでした。

年代

60代が多いのですが他の年代は極端な偏りはありません。10代、20代が来場して展示の内容に興味を持ってくれたのは嬉しいことです。

感想内容のまとめ

パネルの情報が多すぎたのではないかと、最後まで読んでいただけるだろうか、ということは私たち担当者が気にかかっていたことでした。お二人疲れた

という方がおられました。苦情として書かれたわけではありません。好意的に展示を見てくださったすべての方に感謝します。必要な方には研究会のメンバーができる範囲説明させていただきましたが、それも好評でした。

若い人たちは「知らなかった。知って良かった」という素直な感想をくれました。他の年代の方も知らなかったのを見にきたという方が多く、「産業慰安婦」の女性たちの存在を多くの方に知ってほしいという私たちの願いが届いたと思います。

朝鮮学校の生徒さんたちも来てくれました。私たちの活動が少しでも彼らへのエールにつながることを願います。

展示をする私たちの思い、また 2 年以上に亘って

おわりに アンケートのなかから一部をご紹介します。全員の分を載せられないのが残念です。



■労務管理の一環として、つまり労働者への福利厚生「思いやり」として慰安所を作る、という考え方が当たり前になされていたのがよくわかって女性のはしくれとしてそれだけで目が回ってしまうような衝撃でした。ましてやだまされて慰安婦にされた本人たちはどれほど怒り、苦しんだことか……

■今回学校の先生の紹介により、初めてここへ訪れ、改めて慰安婦について深く考えることができました。特に松代大本營の説明文は、中学時代に行ったこともあって多くの朝鮮労働者が連れてこられたのは知っていましたが、慰安所があったということは初めて知ったので衝撃的でした。そして歴史についてもっとよく知るべきだと思いました。

■この度、知人より慰安婦に関する展示があると伺って初めて訪れました。私たち朝鮮高校生にとっては慰安婦のことは既知の事実でありましたが、皆さまのフィールドワークによる具体的な資料展示によってより詳しいことを知ることができました。歴史歪曲、末梢が当たり前になっている日本社会でこのような良心的な展示を行っている皆様にご心より感謝を申し上げます。これからも歴史を守り日朝友好のために互いに尽力していきましょう。

現地調査をして資料を整理してきた努力、限られたスペースで最大限の情報を盛り込むための苦心したパネル、そういうものに対して慰労や励ましのお言葉をたくさんいただきました。展示から見ている方に伝わるものだと不思議な気持ちにもなり、報われたと思います。さらに研究を継続していこうという背中を押していただきました。

アンケートに特徴的なのは、ご自分の感想を積極的に述べてくださって、そのあとに記名だけではなく住所やアドレスを書いている方が多いことです。今回の展示に関心を持ち、この後さらに新しい展開を知りたいというご希望の表れと受け取り、さらに埋もれた歴史を掘りおこしていきたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。

■慰安婦について詳しく勉強する機会がなかったので今回来てみてちゃんと学ぶことができました。それに私達 在日朝鮮人について理解しようとしてくれる日本の方がここまでしてくれていることに私はとてもうれしかったです。私達だけで闘っているのではないんだと自信ができました。展示の内容も分かりやすく読みやすい。説明もしていただき、より理解しやすく勉強になりました。ありがとうございます。

■初めてみる資料ばかりです。筑豊で幼少期（1950 年前半）を過ごしました。頭の断片にある思い出が少しだけ全体の中に位置づけられました。すばらしい展示に感謝します。

■このような展示ははじめてのような気がします。この視点は重要と思います。

■全国に広がっていた場所をたずねて調査してくださった方々、残された資料を集めることも困難な中に、事実の証言を求めて本当に大切なお仕事をありがとうございました。鎮魂とお詫びの思いと考え、二度と悲惨をくり返さぬよう今も世界の現実の中に生かしていられるよう祈るものです。今こういう企画をとりあげて下さり本当

に感謝です。

■ツイッターでこの「産業慰安婦」展示会のことを知って、ちょうどこの前に映画<軍艦島>を観て、もしかして映画であるのは「産業慰安婦」かなと思ってから、台湾から来ました。来てよかったと思いますので、帰国後台湾にある慰安婦博物館の皆に伝えたいです。

■やっと来ることができました。北海道の資料がとてもしっかり展示されていて興味深く読ませて頂きました。北海道で展示できるといいと思いました。

■産業慰安婦を初めて知りました。歴史の不条理をあらためて考えさせられ、それにしてもヘイトスピーチデモ…日本人の狭き精神構造は何とかならないものなのかと。

■慰安婦の実情が分かりやすくまとまっていた。なかでも慰安婦の方々の証言はショッキングだった。日本だと、慰安婦は日本軍の相手をしただけ、というイメージがあるがそれだけでなく、朝鮮人労働者の相手もさせられていたというのは知らなかった。

■2001年松代大本営に行ったとき、「慰安婦の家建設反対」と書いた大看板を見ておどろいた覚えがあります。兵士だけでなく労働者たちに対して女性をあてがい不満をそらそうとする制度があったことは今回初めて知りました。

■日本各地の慰安婦の歴史が細かく展示されていて歴史背景とともに強制連行の過程と理由を理解することができました。労働者を逃亡させないための国策としての慰安婦がいたということで、女性、外国出身という二重の差別があったのだと分かりました。

■朝鮮人女性たちを慰安婦にさせた背景や、その実状は見るに堪えないものであった。この事実を知っている日本人は少ないが目をそらさず見る必要があると感じた。よくまとめられていてわかりやすい展示でした。日本でも飢饉があって、こどもを奉公に出したという話は聞いたことがあります。朝鮮から多くの「労務者」がきていたこと、朝鮮料理店という「慰安所」が設けられたことをはじめとしてしりました。

■「性」というテーマはとても思いテーマだと思うが、「遊廓」というものからこのテーマにアプローチしてたいへん興味深かった。ところどころ当時の社会に関する描写を挟んでいただいていたので、理解しやすかったし面白かった。

■朝鮮の慰安所に関する展示を見たのは初めてで、ニュースでしか聞いたことのなかった慰安婦についてこの場で詳しく知れたことは自分にとってたいへん有意義だった。朝鮮慰安所は主に日本の軍人のためのものだったと思っていたが、実際には鉱山で働く人のための産業慰安所など、労働者の逃亡を防ぐためのものもあったということを知って驚いた。朝鮮人と日本人の間で公娼制度の捉え方にギャップがあったことは興味深かった。

■遊廓的役割を果たした施設を「料理店」という名で経営していたことに衝撃を受けた。日本軍の策略を感じた。もともと公娼制が公的に禁止されていたからこそ、朝鮮人女性が日本軍から受けた屈辱は大きいのかと思う。講演会を聴き、現代のAV問題、JKビジネスにつながる問題点が植民地遊廓問題の中に見られると思った。

■新たな視点をもらった気がします。ありがとうございました。ささやかな女性史サークルに入っています。今後活かせたらと思います。

■料理店の展示、今まで見たことのない事実を知ることができました。背景となっている様々な状況も詳細にわかりました。大変なお仕事だったと思います。ありがとうございました。今後は当事者が声をあげられるようになると良いと思います。その為の大事な土台となる展示だと思いました。

■炭鉱等での朝鮮人労働（強制労働）については知っていましたが、朝鮮人の女性（少女）の遊廓（慰安所）については知らずにいました。よく考えれば政府・軍として行うのはうなずけるのですが、知らされずに、あまりにも語れない中で沈黙にあるのだと再認識しました。女性への人権侵害や差別だけでなく、やはり民族差別を多分に含んでいると思いました。

■「慰安所」になぜ女性たちがやって来るようになったのか。その社会背景が丁寧に説明されていて、単に善悪の判断に終わらないものとして歴史を多角的に知ることができた。

■朝日新聞の記事をみて初めて訪れました。住所が粕江（こまえ）＝高麗（らしいです）ということもあって興味を持ちました。労働問題に関心を持っているので今回の企画展は当時を知る上でも参考になりました。炭鉱の町にこのような施設（料理店）があったことを恥づかしながら初めて知りました。分かり易いご説明、解説あり

がとうございました。

■高校生のころ郷土の歴史と称して、鉄道、道路の工事に朝鮮人が使役させられ、亡くなったという話や立待岬の身投げの事も知りました。しかし、慰安所の話はなかったと思います。今回初めて知り、知らないことの罪深さを思い知りました。ありがとうございました。

■展示パネルがとてもきれいでよく工夫されているのに感心しました。情報量が多いと大変だと思いますが、見やすいレイアウトときれいな印刷で、できる限り読みやすくされていました。内容も各地の歴史的事実を確認できるようなものが示されていて、当時の状態が詳しくわかり認識が深まりました。

■WAM と「続けて見てきましたが、兵士には慰安所が必要」とか「労働者には慰安所が必要」みたいなことが普通に語られていて常識が何だかよく分からなくなってきました。異常が日常のような世界は二度とごめんです。

■これだけの資料がありつつ、慰安婦をなかったことのようにしようとするには怒りを感じます。事実をうけ入れ、その上でそれをのりこえる関係や方向を考えるべきででしょう。

■日本の植民地政策によって朝鮮の人々がどんなに追いつめられていったか、また女性たちが犠牲とならねばならなかったか深く考えさせられました。男性たちの労働管理のために女性の性を「活用」という発想は現在の性暴力ともつながると思いました。

■私は日本軍「慰安婦」問題の活動をしていますが日本の国策で女性たちを利用していただけです。「慰安」という言葉も同じですね。調査が進んでいないけど時間がたってしまっていてわからないことがたくさんあるけど忘れてはならないことだと思います。本が出るそうですが楽しみです。

■何となく学校の授業で習ったことはありましたが詳しく知る機会がなかったのでこういうことが起きていたのかと心にくるものがありました。

■普段こうやって博物館に行ってお話を聞く機会がなかなかないため朝鮮について知ることが出来たので良かったと思います。ありがとうございました。

■2005年5月頃まで国会図書館に通い北海道新聞、函館、夕張、東北方面の1937年～1945年までの新聞のマイクロフィルムを調べたことを思い出します。憩いの家とか

立待岬の身投げの記事など感慨深く思い出します。みなさまの調査活動の結果、このような展示を観させていただきありがとうございました。

■産業「慰安所」について全く知らなかった。このようなことを会社が関与しておこなったことを、現在において日本人が知らなくてはならないと思った。

■国が性を管理するって発想が「？」。本当にこれで男性はコントロールされるものなんだろうか？

■これほど「慰安所」が各地にあったことは知らなかったので驚きでした。慰安所という名称だけでなく料理店として営業していたのにも驚きです。

■大切なことを調べ、展示してくださいました。「慰安婦」問題は知られても朝鮮人女性の朝鮮人労働者を対象とした施設がつけられたこと、その実態は初めて知りました。いつもながらの、現地へ行き、資料を掘りおこす御努力に頭が下がります。

■従軍イアンプのことは知っていましたが朝鮮料理店のことは知りませんでした。大きなショウゲキでした。知られていない日本の歴史を掘り起こす作業はたいへんだったと思いますがありがとうございました。この展示を見ることができて世の中の見方が変わりました。

■（北海道）常呂郡置戸町にイトムラ鉱業（水銀鉱）があり「タコベヤ」という所に朝鮮労働者が（30人くらい？）いたのを（42?～45年）覚えていたので見に来ました。「慰安所」すらなかったと思う。

■筆舌に尽くしがたい程の展示内容。強制的に連れてこられた方の苦しみはいかばかりか。本来なら直視し反省の意を表明するのが筋なのであろうが残念なことに「日本を愛する、普通の日本人」らがそれを許さないといいうのが何ともいかんしがたい。

（渡辺正恵：文責）

編集後記

○企画展を終了してホットしている気持ちとまだまだ課題があるぞと自分を奮立たせる気持ちとで複雑。もう少し産業「慰安婦」や朝鮮人酌婦たちと対話してみたいと思う今日この頃。これからもよろしくお願ひします。（Y. W）

○昨年、産業慰安所について視野を広げたいとwamの「日本人慰安婦」の講演会に参加。聞いた驚く話、講師の吉川春子さんが言ったのは「当時、日本のあっちこっちに遊廓があった。日本は遊廓列島だった」と。やはりそうだったのか。軍慰安所、産業「慰安所」ができた理由は、ここにあったと納得した。（S. O）